話力 和力 輪力 第3回

子どもの考えるユーモア

前群馬大学教授　**高橋　俊三**

群馬大学教育学部附属中学校の校長を兼任しているとき，生徒は私の顔を見ると，洒落を言わなければいけないという強迫観念に駆られるのか，それとも，私を喜ばせてくれようと思うのか，よく洒落を仕掛けてきた。

一年生の作。廊下を歩いていると，三人の女子が追い抜きざまに，「校長先生，葡萄一粒どう？」と笑い掛け，走り去った。「武道だけに一本取られた」と言う暇も無く。

二年生ともなると，英語が入ってくる。全体集会のため体育館への渡り廊下を歩いていると，前を行く五, 六人の女子が，「言っちゃえ」「言っちゃえ」と，突き合っている。どうも私にであるらしい。私がおどけて，「言っちゃえ」と言うと，「校長先生，あのね，Do you want HOSHIIKA ？」と来た。「干し烏賊，欲しいか？」より一格上がる。

三年生との会話。翌日に控えた公開研究会の準備で，全校で清掃活動。参会者の控室になる教室に入ると，三年生が熱心に掃除。教師が黒板に「禁煙」の紙を貼っていった。「おいおい君たち，ここで煙草を吸ってはいけないよ」と言うと，一人の男子がすかさず，「ハイ，ここでは吸いません」。何処でだって煙草など吸わない生徒たちであった。

若い頃，東京学芸大学附属世田谷中学校の教師をしているとき，幾度か，生徒たちにユーモア作品創作の授業をしたことがある。三編紹介しよう。

「猿」（一年女子）

夏，我，高崎山にて猿見学。餌の時間になり猿歓喜。一心不乱に食らう。ある猿，空（から）の落花生を食らう。激怒し暴走，木に激突。我思う，猿も走れば木に当たる，と。

「怪力ミキゴン」（二年女子）

二月四日，親友晴子嬢と登校中，我の怪力不意に出るなり。我，爆笑中晴子嬢を軽く押せるも，彼女，平衡失せて，空中飛行の後，滑走す。我，驚嘆。怪力ミキゴン出現なり。見物人爆笑。我赤面。乙女心一ヶ月の重傷なり。

「最……低……」（三年男子）

某月某日我断髪。
鏡不使用即失敗。
両親驚愕兄狂喜。
級友爆笑前途暗。
我知切後髪長～友。

悲しいときも，辛いときも，無理に笑って，明るい雰囲気を作り，作らせましょう。

たかはし　しゅんぞう　前群馬大学教授。ILEC言語教育文化研究所常務理事。NHKテレビ「話し方教室」「朗読入門」など企画出演。現在，「猫また」の45分授業で，小学生の笑いを呼ぶ授業に凝っている。